

9. 学術委員会報告

日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) について、2 件報告します。

第 13 回 MSJ-IRI について

ファーストアナウンスメントが公表されました。概要は以下の通りです。

第 13 回日本数学会国際研究集会 (The 13th MSJ-IRI) 「モジュライ空間と数論幾何」 (Moduli Spaces and Arithmetic Geometry)

主催：日本数学会，京都大学数理解析研究所，京都大学大学院理学研究科

開催日時：2004 年，9/15 (水) - 9/22 (水)

(3 連休の土日は休み，月曜日より再開)

場所：京都大学，数理解析研究所 420 号室，または理学部 6 号館

組織委員：

向井茂 (委員長，京大数研)

森脇淳 (京大理)

宮岡洋一 (東大数理)

森重文 (京大数研)

中村郁 (北大理)

齋藤政彦 (神戸大理)

加藤文元 (京大理)

開催形態：

E. Arbarello (伊 Roma)

望月 (京大数研)

向井 (京大数研)

C.Soulé (仏 IHES)

他による五つの連続概括講演，および

Nitsure (印 TIFR)

Zhang (米 Columbia U.)

Beauville (仏 Nice)

Voisin (仏 Paris)

Hain (米 Duke U.)

Faber (Stockholm)

他による研究発表講演。

第 14 回 MSJ-IRI のテーマ採択について

第 14 回 MSJ-IRI (2005 年度開催) の公募に対し，つぎの 2 件 (順不同) の応募がありました。

漸近解析と特異性

Noncommutative Geometry and Mathematical Physics

この応募案について，2003 年 6 月 7 日に選考委員会が開催されました。審議の結果，「漸近解析と特異性」を第一位で理事会に推薦することと決定し，6 月 21 日の月例理事会で採択が承認されました。

選考経過での意見を要約します。両提案とも十分水準を満たす提案との意見が大勢でした。「Noncommutative Geometry and Mathematical Physics」については，時機を得たいへん魅力的な計画と評価されましたが，MSJ-IRI としては初めての海外 (フランス) での開催計画であり，開催地および開催形態について，院生等の参加が難しくなるなどのネガティブな側面と，日本数学会の将来を見据えた新しい試みというポジティブな側面を指摘する意見が平行しました。一方「漸近解析と特異性」は，偏微分方程式という広範な領域を concentration というキーワードに集約して一同にまとめるたいへん意欲的な計画であると評価されました。以上の十分な議論の末，今回は「漸近解析と特異性」を一位で推すことに決まりました。

採択された MSJ-IRI の概要は以下の通りです。

第 14 回日本数学会国際研究集会の概略

研究集会名称：漸近解析と特異性 (Asymptotic Analysis and Singularity)

開催予定地：東北大学

開催予定時期：2005 年度中

組織委員長：堤誉志雄 (東北大理)

組織委員会 名簿：

柳田英二 (東北大理)

小園英雄 (東北大理)

田中和永 (早大理工)

規定により，今回の選考委員会名簿を公表します：村田實，吉田朋好，重川一郎，二木昭人，柴田良弘，宮本雅彦 (以上選考委員)，齋藤政彦 (学術委員会委員長)。(学術委員会委員長 小島定吉記)